

平成24年度豊岡小学校経営方針

学校教育目標

「させられる自分」から「する自分」へ
～肯定的なかかわりの中で～

「する自分」を創り出すとは、児童の学習意欲、生活意欲を対象とした教育活動である。

子どもたちが、よりよく学習し、生活するために、「意思」を鍛え「欲求」を刺激することが重要である。そして、全ての教育活動の基盤に「肯定的なかかわり」を据え、その子のよさの意味づけである「無意識の意識化」を図ることで心身共に健康で主体的に生きていく「学びの主人公」の育成をめざす。

指導の柱と重点目標

柱	よりよく生きるための「情」の力	納得して自ら学ぶ「知」の力	健康と安全をつくる「体」の力
目標	<ul style="list-style-type: none">■「命の尊さ」「思いやりの心」「自律心」「忍耐力」など豊かな心の育成■基本的な生活技能の徹底	<ul style="list-style-type: none">■基礎的・基本的な知識・技能の定着■思考力・判断力・表現力を育むための言語活動の質の向上	<ul style="list-style-type: none">■基礎体力の育成■運動意欲の向上■基本的な生活習慣の確立に向けた取組
■聴くことを核とした支持的風土のある学級・学年・学校づくりをすすめる			

学校経営の充実を図るために

- (1) 全学年で学年副担任制を実施し、教師自らによる教育実践の「交流」と「共有」による学び合いを通して、協働体制を充実させる。
- (2) 学習指導の充実を図るため、低・中学年においては「TT」による指導、高学年においては「教科担任制」と「少人数授業」を組み合わせた「豊小スタンダード」としての指導を実施する。
- (3) 「読書環境の工夫」「読書意欲の喚起」を視点に、読書活動をさらに充実させる。
- (4) 人間関係能力を育成するため、異年齢による縦割り活動を充実させる。
- (5) いじめや不登校などの課題解決に向け、子どもの声を聴くことを教育活動の基軸に据えるとともに、心理テスト、生活アンケート、相談週間を通して、児童理解を深める。
- (6) 人権への配慮が行き届いた学習環境、言語環境を整え、一人一人が大切にされる学校文化を築くとともに、居心地のよい学級・学年・学校づくりをめざす。
- (7) 但馬一「あおだ・・・明るく、大きな、誰にでも」挨拶のできる学校をめざす。
- (8) 基本的な生活習慣や学習習慣の確立を図るため、学校・家庭の連携を密にする。
- (9) オープンスクール、学校関係者評価委員会、学校評議員会、子どもを守る学校安全対策会議、各ボランティアの活用等の取組を通して「開かれた学校」づくりを進める。
- (10) 児童の体力向上、環境にやさしい学校づくり、地域と学校の繋がりの強化をめざし、校庭の芝生化の継続した取組を進める。
- (11) 児童が自らの生命を守るのに必要な能力や態度を育成するために防災教育を充実させる。
- (12) 防犯ボランティアの協力による登下校時のパトロールや学校における不審者対応等、学校内外における子どもの安全を守るための継続した取組を進める。
- (13) 保幼小連携、小中連携を通し、連続性、系統性のある生活指導や学習指導を行う。